

巻頭言

ゆらぐ製造業 揺るぎない工業教育

山形県高等学校教育研究会 工業部会長

(山形県立長井工業高等学校長) 船 山 秀 一

小惑星探査機「はやぶさ」が、3億km離れたイトカワでの砂の採取というプロジェクトを終え、60億kmの飛行の末、22年6月13日、7年ぶりに地球に帰還しました。(正しくは、「はやぶさ」本体は大気圏突入で燃え尽き、カプセルが砂漠に到達し回収されたと言うことですが)燃料もれ、通信断絶、エンジントラブル、行方不明47日間など数々の危機を乗り越えた技術者達が、日本の技術力を世界に示した快挙であり、月以外の天体との往復を成し遂げたという人類初の偉業です。次々と降り掛かる困難試練に立ち向かった技術者魂は、ものづくりを学んでいる工業高校生の良き模範と感じ胸が熱くなりました。最後まで可能性を追求する、地道な実験を繰り返す、どんなことがあっても諦めず結果を出す、ものづくりの基本も同じことと改めて痛感した次第です。

「ものづくり」教育の基本は、理論と実践の協働であり、率先垂範と師弟同行です。本工業部会では、県内企業等のご協力をいただき、工業科教員を対象とした実技講習会を毎年開催しています。今年度は、1月末にフライス盤とマシニングセンタの講習会を実施しました。県内より10名の参加を得て、充実した講習会となりました。講習の成果と先生方の工業教育にかける熱意が、技能検定の高い合格率や高校生ものづくりコンテスト等の好成績となって結実し、「ものづくり」への興味・関心・意欲といった工業人として重要な素養を身につけた実践力のある人材育成に結びつくものと考えています。

今、製造業は先の見えない経済不況、円高、デフレと非常に厳しい状況にあり、新聞でも「ゆらぐ製造業」として特集が組まれました。加えて若者の失業率や非正規雇用率の高さ、無業者・フリーターの増加、新規学卒者の3年以内の離職率の高さなども社会問題になっています。その中で、工業高校を卒業した人達は、定着率も高く職業意識がしっかりとしていると高い評価を得ており、本県工業部会としても、揺るぎない工業教育に努めたいと考えております。

最後になりますが、今年度も、県工業校長会では(財)マエタテクノロジーリサーチファンド様の助成により、品質管理講座を実施することができました。関係各位に本誌面をお借りして、深く感謝申し上げます。